

周りの人に支えられ 当別で就農中！

現代まを生きる

させ 佐瀬 拓也 さん



今回は、昨年4月より弁華別で新規就農した佐瀬拓也さんにお話をお聞きました。

あと一步で逃した甲子園

今耕作している弁華別の土地には、元々祖母が住んでいました。私は生まれも育ちも札幌で、子どもの頃は夏休みなどに里帰りして手伝う程度だったので、まさか自分がここで農業を始めるとは思ってもいませんでした。

小学1年生から野球一筋。特に思い出に残っているのは高校3年の夏で、私が所属した札幌光星高校野球部は当時地区大会をなかなか勝ち進めずにいたのですが、最後の夏に21年ぶりに南北海道大会に出場することができました。そのまま勢いに乗って決勝戦まで勝ち進み、迎えた決勝戦は大リーグのヤンキースで活躍した田中将大投手（現・楽天）擁する駒大苫小牧と対戦。投手だった私はブルペンで準備していましたが、登板機会がないまま惜しくも敗戦。負けはしましたが、甲子園出場あと一步のところまで行けたことは、今でも誇りに思っています。

祖母の故郷で新規就農！

転機となったのは4年前。大学卒業後、道内の物流企業に就職し、帯広に勤務していました。そんな矢先、祖母が高齢で農業が続けられなくなり、父も札幌から通って耕作していましたが、兼業だったのであまり上手くいっていない話を耳にしました。自分が先祖代々の土地を守りたいという使命感から、当別で農業を始めようと決意。何から始めたら分からなかったなので、まずは役場の農務課に相談してみました。

設備など新しく農業を始めるにあたって資金も必要なので、国の農業次世代人材投資資金を活用することを勧められました。また、今の土地の広さでは、米だけで収益を上げるのは難しいので、花きを始めることをも提案されました。花きについては知識がなかったので、町の人材育成基金を活用して、滝川市にある花・野菜技術センターで半年間研修しました。

就農して初めての収穫は…

昨年4月から就農し、米とカスミソウを生産しています。カスミソウは滝川での研修中に興味を

持ったのもありますが、当別の町花でもあるので、育てることで当別をもっと知ることができるのではないかと思います、選びました。

稲作は隣の農家の勝藤さん、花きを同じ地区の重原さんと春日町の庵さんに指導していただいています。基本的に一人で農作業していますが、繁忙期には両親や親戚の叔母さんも手伝いに来てくれます。周りのサポートがあって何とかやっつけていけるのが現状です。

昨年の収穫では、米は目標どおり収穫できたのですが、カスミソウは大失敗。花を切るタイミングが遅くなり、半数近くが出荷できずに廃棄となってしまいました。今年は昨年の反省を活かして、作業に取り組んでおり、カスミソウはすでに出荷が始まっています。

地域に還元できるように

何年先になるか分かりませんが、自分が独り立ちした際には、いつもお世話になっている皆さんに還元できるよう、次世代の育成にも取り組みたいです。そのためにも、まずは自分自身が成長しなければならないので、目の前の目標に全力で取り組んでいきます。